

下尾根遺跡

県営ほ場整備事業笹原地区に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

2001年 3月

茅野市教育委員会

SHIMOONE SITE

下尾根遺跡

県営ほ場整備事業笹原地区に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

2001年 3月

茅野市教育委員会

序 文

茅野市には国宝『土偶』が出土した棚畠遺跡をはじめ、国特別史跡尖石遺跡、国史跡上ノ段遺跡、国史跡駒形遺跡など多数の縄文時代遺跡がある縄文文化の宝庫であります。

ここに報告する下尾根遺跡は、縄文時代から中世の遺跡として知られていましたが、発掘調査が行われていないため、遺跡の内容などは未解明であります。

平成11年度に、県営ほ場として下尾根遺跡一帯を削平し整備する大がかりな造成が計画され、発掘調査を実施することになりました。

下尾根遺跡が位置する笹原区に隣接する北山地区には、平成10年度から平成12年度にかけて発掘調査された縄文時代中期の中核的な大遺跡「長峯遺跡」があります。

下尾根遺跡の発掘調査では住居跡がまったくなく、土坑だけが発見されました。そのほとんどは縄文時代の狩猟用の落し穴とみられる遺構であります。こうした落し穴遺構の発見で、居住域の集落遺跡に対する狩猟域の遺跡が確認されたことになり、縄文人の生活域を考える上で、貴重な資料を集積することができました。

発掘された下尾根遺跡の記録である本書が多くの人々に広く活用され、また郷土を知り学ぶことで、地域文化の向上に役立てば幸いです。

最後になりましたが、平成11年の発掘調査から本書の作成までご協力頂きました地元の皆様、並びに、発掘調査に参加されました多くの皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成13年3月

茅野市教育委員会

教育長 両角 源美

例　　言

1. 本書は、県省は場整備事業に伴い、長野県深谷地方事務所から茅野市教育委員会が委託を受け実施した長野県茅野市湖東「下尾根遺跡」の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は茅野市教育委員会が平成8年度に試掘調査、11年度に発掘調査を実施しているが、報告書は、協議の結果、平成12年度に発行することになった。調査の組織等の名簿は発掘調査組織として別載してある。
3. 発掘調査は平成11年10月13日から平成12年2月14日まで実施、出土品の整理及び報告書の作成は茅野市教育委員会文化財課尖石繩文考古館において行った。
4. 発掘調査から本書作成まで現場は平成8年度の試掘調査を小林深志、平成11年度の発掘調査を百瀬一郎が担当し、執筆は百瀬一郎が担当した。
5. 本報告書に掲載の遺構の実測図は、土坑を1/60、遺物は繩文時代の土器を1/3を原則として縮尺比の異なるものは比率を記している。図の色調は日本色研事業株式会社発行の「新版 標準土色帖」による。
6. 調査区の基準点は国家座標基準点による。また遺構図面上に表されている北は座標北を示す。
7. 本報告にかかる出土品、諸記録は茅野市教育委員会文化財課尖石繩文考古館で収蔵、保管している。

目　　次

序文

例言

目次

第Ⅰ章 下尾根遺跡の環境と調査史.....	1
第1節 下尾根遺跡の位置と環境.....	1
1 遺跡の位置と地理的環境.....	1
2 遺跡の立地と周辺遺跡との地理的関係.....	1
第2節 坑原の遺跡調査史.....	2
1 遺跡の研究史.....	2
第Ⅱ章 発掘調査の概要と諸事業の記録.....	4
第1節 発掘調査の経過.....	4
1 発掘調査の経過.....	4
2 調査日誌抄.....	4
3 遺物整理と報告書作成の作業.....	5
第2節 発掘調査の方法.....	5
1 発掘調査組織.....	5
2 発掘調査区の設定.....	6
第Ⅲ章 発掘された遺構と遺物.....	7
第1節 下尾根遺跡の層序.....	7
第2節 平成8年度の調査.....	7
第3節 平成11年度の調査.....	8
第Ⅳ章 まとめ.....	25
抄録	

第Ⅰ章 下尾根遺跡の環境と調査史

第1節 下尾根遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置と地理的環境

下尾根遺跡は、長野県茅野市湖東888番地他の通称、御射鹿（みさか）と呼ばれている一角に所在し、小字はすべて下ノ原である。JR中央東線茅野駅から東北東に約10kmの地点で猿原集落北西隅の鹿狩社から西側に延びている尾根上に位置している。

遺跡の位置する湖東地区は、諏訪湖周辺とは霧ヶ峰の山塊により画された東側に迫り、八ヶ岳連峰の西側に広がる北側の米沢・北山、南側の豊平とともに北山浦と称されている一帯のはば中央で南北約1.6km、東西約7.5kmの狭長な地域である。八ヶ岳（最高峰赤岳、標高2899m）の西麓は諏訪湖（標高759m）に流入する河川である上川水系の支流が広がり、標高1000m付近から下では、各所に伏流水の涌き水がある。幾筋も集まつた流水は小溪流となり開析谷を形成している。開析谷は浸食が進むと長峰状の台地地形を造り出す。下尾根遺跡もこのような火山泥流が浸食されてできた尾根状台地にある。

湖東地区的交通幹線は国道152号、299号線で、冬季には閉鎖となるが八ヶ岳の麦草峠（標高2120m）を経て、南佐久郡八千穂村に続いている。

2 遺跡の立地と周辺遺跡との地理的関係

下尾根遺跡は、八ヶ岳からの火山噴出物と立山、御岳、乗鞍のテフラの堆積によって構成された広原状の通称広原（ひろっぱら）の西方に展開する開析谷によって形造られた尾根の台地上にある。台地の基層は黄褐色を呈し、安山岩系の円礫を多く含む八ヶ岳の噴出物で、この上に黄褐色で粒子が細かく、礫をほとんど含まないテフラ層が厚く堆積し、これを厚い腐食土層が覆っている。



第1図 下尾根遺跡の位置と周辺の遺跡（1:25,000）

遺跡は北が渋川、南が角名（かくみょう）川によって東西方向に画された長峰状丘陵の支尾根上にある。遺跡の位置する台地からは北に霧ヶ峰、車山、大門峰、蓼科山、東に八ヶ岳が別なり、南方から西方にかけては赤石山系の甲斐駒ヶ岳を遠望、手前に入笠山、枕突峰、守屋山、更に北アルプスの峰々が360°のパノラマで一望できる。

下尾根遺跡周辺の遺跡は、北東の渋川原遺跡（遺跡番号293）、細沢遺跡（同294）、県営蓼科ダム関連で長野県埋蔵文化財センターにより発掘され落し穴群が見つかっている笹原上第2遺跡（同322）、東側には長野汐下遺跡（同295）、第2遺跡と同時に調査され落し穴群が見つかった笹原上第1遺跡（同321）、南東が外丸戸遺跡（同296）、瘦尾根遺跡（同45）、南側は角名川の右岸には場整備で埋められた桂井戸遺跡（同48）、同遺跡の対岸には尾根遺跡（同49）、南西に町道下遺跡（同328）、別田沢遺跡（同327）、西側は角名川の対岸に縄文時代中期、後期の中核集落遺跡となる長竿遺跡（同50）、同じ尾根の西側に縄文時代中期、後期の集落遺跡である聖石遺跡（同51）、北西に糸萱遺跡（同202）がある（第1図）。

第2節 笹原の遺跡調査史

1 遺跡の研究史

下尾根遺跡は桑から野菜に転作があったものの全面が畑地として耕作されてきて、今まで発掘調査を実施されたことがなかったため、遺跡の内容も判明していない。そこで笹原における遺跡研究史の一端を記しておく。笹原の遺跡についての初現は、1956年（昭和31年）信濃史料刊行會発行の『信濃史料第1巻上』で第1地名表A遺跡調訪郡茅野町湖東地区に 番号3107 遺跡 部落字地 笹原桂井戸 地形 平地 遺物（縄石鐵・垂飾石 備考（藏）堀内清七・小口清志との記載がある。

1961年（昭和36年）湖東公民館発行の『湖東村史上』第1編原始時代第2章湖東地域の原始時代遺跡には下尾根遺跡の南に位置している桂井戸遺跡から縄文時代後期初頭の土器片多数が出土したとある。同書第3章湖東地域の原始文化には

最も、縄文文化以前の遺跡は、まだ発見されていないが、一学童によりその資料としての尖頭石器1点が北尾根（笹原）から採集され、亦 黒曜石の原産地冷山とその遺跡とが東近くの渋川台地に発見されているから、やがては、この地域にもその遺跡が調査され、人跡の始源が、一万年以前に遡り得ると推定されるに至るであろう。

と、区内から旧石器時代の遺物が出土した可能性を示唆している。なおこの石器の出土場所、現在の所在については不明である。

1968年（昭和43年）諏訪史談会発行の『諏訪史蹟要項 24 茅野市湖東篇』は「原始時代遺跡」の項に「湖東村史上」の抜粋と遺跡一覧が掲載されている。また「笹原」の項には

▲鹿狩社 祭神建御名方命 此の附近一帯の山野は諏訪神社の御狩の時、上の明治温泉附近から笹原の尾根にかけて、獣物を追詰めた所と思われる。この社を中心として、明治温泉に至る沿道一帯の地は「御射鹿」と云う地名になっている。

この附近的畑からは、中世の鉄鎌が発見されている事からも諏訪神社の御狩りに關係ある旧墳地である。

と下尾根遺跡の東に隣接する鹿狩社周辺から鉄鎌が出土した記載がある。

下尾根遺跡についての具体的な調査は1980年（昭和55年）長野県教育委員会が刊行した『八ヶ岳西南麓遺跡群分布調査報告書 昭和54年度』で1茅野市の表に

遺跡番号47 遺跡名下尾根 所在地湖東笹原下尾根 立地丘陵 遺構・遺物（縄）中期土器片、黒耀石片

とありこの時から遺跡番号47を用いている。また笹原区内の遺跡で桂井戸遺跡を『信濃史料第1巻上』と同じ内容で登録している。

1986年（昭和61年）茅野市から刊行された『茅野市史 上巻 原始古代』、及び1991年（平成3年）茅野市教育委員会の『茅野市遺跡台帳』は、『八ヶ岳西南麓遺跡群分布調査報告書』の内容を踏襲しているが、『茅野市遺跡台帳』（改訂版2000年発行）では笹原区内の細沢遺跡と長野沙下遺跡を新登録として加えており、いずれの遺跡も時代区分は縄文時代だが時期不明となっている。

側長野県埋蔵文化財センターは1996年（平成8年）に県営蓼科ダム開通で、笹原区と隣接する豊平東郷地籍の笹原上第1遺跡と笹原上第2遺跡を発掘し、縄文時代の落し穴群で構成される遺跡を確認している。

研究史とは直接関係ないが落し穴について1981年（昭和56年）堀内清七が『笹原のあゆみ』の「鳥獣の害と風の害」にあるので転載しておく。

又所々に猪落としといって大きな穴を掘り、周囲に石垣を積み、一度落ちたら決して上がれない様にして、其の中に奸餌を入れて猪や鹿を生け捕る方法などがあった。自分（清七）が子供の頃、猪落としの穴が下横谷の滝の東方にあったのを見たことがある。

と明治時代まで残っていた猪用の落し穴を現地に出向いて実見した記録があり、これは当時笹原区内に落し穴で残存しているものはなかった可能性と猪落としは本遺跡及び笹原上第1遺跡、笹原上第2遺跡の発掘調査で見つかっている落し穴と考えられる土坑とは明らかに形態が異なることを示している。

第II章 発掘調査の概要と諸事業の記録

第1節 発掘調査の経過

1 発掘調査の経過

平成8年度

平成9年1月29日付「平成8年度県営は場整備事業笠原地区埋蔵文化財発掘業務委託契約書」により長野県諏訪地方事務所長小林俊規と発掘業務委託の契約を204,000円で締結。

試掘調査はトレンチ法により平成9年3月18日 開始、平成9年3月19日 計25本を設定調査して終了。

平成11年度

平成11年4月15日付「平成11年度県営は場整備事業笠原地区埋蔵文化財発掘業務委託契約書」により長野県諏訪地方事務所長香坂守義と発掘業務委託の契約を11,792,000円で締結する。

平成11年10月13日 発掘調査開始。12月22日 本工事に伴う調査区の切り渡し開始。平成12年2月14日 調査終了。長野県諏訪地方事務所土地改良課へ全面引渡しを行う。

当初想定に比べ遺物・遺構の減少に伴い、平成12年2月7日付で「変更委託契約書」により契約額を1,408,000円減額し10,384,000円とする。

平成12年度

平成12年4月17日付「平成12年度県営は場整備事業笠原地区埋蔵文化財発掘業務委託契約書」により長野県諏訪地方事務所長久保田勝士と発掘業務委託の契約を352,000円で締結する。

2 調査日誌抄

平成8年度試掘調査

平成9年3月18日 試掘調査は東側からトレンチを設定して開始。北側斜面で面的遺構を検出する。中央部分は、遺構・遺物の検出はない。平成9年3月19日 西側は土坑が狭い範囲に集中しているところがある。埋め戻しまで行い試掘調査を終了する。

平成11年度発掘調査

10月4日 笠原地区切り土に関する整備委員会、長野県諏訪地方事務所、本工事業者と廃土の処理について現地立合協議を実施。表土の黒土はすべて埋め土とすることが決定される。10月13日 東側から発掘調査を開始する。10月19日 地方事務所土地改良課滝沢技師来跡。10月20日 西側の発掘調査を開始、発掘作業着手が当初予定より大幅に遅れ、更に今後耕作物の収穫日程が未定なため報告書刊行は次年度延期と決定する。10月21日 両角正彦整備委員会委員長来跡。東側の面的遺構は天地返しの際に重機が転回した跡と判明し、また西側の狭い範囲に集中している土坑らしいものも天地返しの掘り返しによるものと判明する。遺物の出土は無い。調査区外に続く落とし穴らしい土坑列が見つかり発掘範囲の変更を委員会、地方事務所土地改良課に要請し了解を得る。10月22日 調査区の安全対策でロープを張る。10月25日 調査予定区内に耕作物が

あるため収穫が済むまで表土剥ぎを中断する。遺跡の限界をには確認する。10月29日 南斜面の原野化した桑畠で根の除去作業に手間取り遺構検出作業が難航する。

11月4日 長野県埋蔵文化財センター柳澤亮調査員来跡。11月9日 土坑の半割り開始。11月15日 表土剥ぎ再開。11月17日 収穫作業のため再び表土剥ぎ中止。

12月1日 調査区北東側から切り土開始。12月6日 表土剥ぎ再開。12月7日 表土剥ぎ終了。 12月16日 対空標識設置。12月17日 航空測量。天候悪化による照度不足のため景観撮影は後日に延期する。12月21日 景観撮影。午後から撤収。12月22日 撤収作業終了。12月27日 航空測量写真が届き現地で確認作業。

平成12年

1月11日 図化原図届き現地で校正を始める。

2月14日 発掘現場で個々の遺構を確認しながら校正図の納品を受け全ての発掘作業を終了する。

3 遺物整理と報告書作成の作業

平成12年1月6日 下尾根遺跡の本格的な整理作業開始

平成13年1月9日 発掘調査報告書の原稿作成開始。

3月19日 「下尾根遺跡」一県営は場整備事業笛原地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—発行

第2節 発掘調査の方法

1 発掘調査組織

本調査は茅野市教育委員会の直轄事業として実施し、その組織は次のとおりである。

調査主体者 両角 敏郎（茅野市教育委員会教育長）平成10年7月30日まで

両角 源美（茅野市教育委員会教育長）平成10年7月31日から

事務局 宮下 安雄（茅野市教育委員会教育次長）平成11年3月31日まで

宮坂 泰文（茅野市教育委員会教育次長）平成11年4月1日から

文化財課 矢嶋 秀一（文化財課長）鵜飼 幸雄（文化財係長）守矢 昌文 小林 深志

大谷 勝己 小池 岳史 功刀 司 百瀬 一郎 小林 健治 柳川 英司 大月三千代

調査担当者 小林 深志（平成8年度担当）百瀬 一郎（平成11・12年度担当）

調査補助員 五味 一郎 武居八千代 堀内 潤

発掘調査・整理作業参加者 鵜飼 澄雄 河西 保明 河西 泰人 北澤 もと 栗原 真 小平 寛

小林 智子 田中 達朗 北條嘉久男 増木 三訓 森 浩子 柳沢九五子 柳沢 宏

山崎 裕子 吉田勝太郎 吉田キヨ子 渡辺 郁夫

平成11年度

基準杭測量委託 有限会社 南信測量茅野出張所 出張所長 横内 久幸（茅野市ちの816番地）

航空測量委託 新日本航業 株式会社 代表取締役 工藤 八一（小諸市甲1176-4番地）

発掘調査期間中、地元湖東、隣接する北山の方々には埋蔵文化財に対して深いご理解と協力を賜り、また県営は場整備事業笛原地区整備委員会の皆様、及び笛原区民の皆様からは貴重で有益なご指導、助言を賜り

ました。ここに深甚なる謝意を表します。

2 発掘調査区の設定

下尾根遺跡は桑畠から野菜畠に転換された頃から大型の農機具が導入と多量の堆肥の持ち込みが始まったため表土が厚く遺跡内容の全体像は不明であった。茅野市教育委員会は平成11年度調査区設定に当たり平成9年度の試掘調査の成果を基にグリッドの設定を行い、座標系第79号系X=2670.000、Y=-21890.000を基準軸として、10m四方のグリッドを配置し、東西軸をアルファベット、南北軸を数字で分割し、アルファベットとアラビア数字の組合せで、例えばA-1と表記してある（第3図）。

第III章 発掘された遺構と遺物

第1節 下尾根遺跡の層序

下尾根遺跡は八ヶ岳の噴出物が堆積し、河川の浸食によって形成された長峰状の台地上に位置する。発掘調査以前の地形は西側に緩やかな傾斜を持ちながら広がって、尾根状台地先端の西側と南側及び北側は急斜面になっていた。遺跡の土層観察はこの尾根状台地の頂部（第4図A-A'）で東西方向に設定して行った。尾根の頂部は平坦で農道が通っており、部分的にローム層まで天地返しの削平を受けているものの、地表から遺構確認面までの深さは30cmから120cmで、東側が薄く、西側の途中まで表土が厚くなり、調査区の西端付近は70cm程の深さで遺構確認面に達する。遺構の密度は東側が濃く、西に行くほど散在するようになる。層序1は耕作土で色調は黒褐色を呈す。粒子は細かく、締まりが無い。粘性はあり、ローム粒子、ロームブロックをほとんど含まない。焼土、炭化物ともにない。礫は無く煙の境界石もすべて他から持ち込んだものであるとの教示を得ている。調査区に隣接地には野菜の追作障害により土の表面が菌の繁殖で白く変色している畑も何枚かあった。層序2は暗褐色土層で、粒子は細かく、締まりがある。粘性は無く、1mm以下のローム粒子と、15mm以下のロームブロックを少量含む。焼土は無く、2mm以下の炭化物を極少量含む。3mm以下の礫を少量含む。層序3はローム漸移層である。色調は黄褐色を呈し、粒子は細かく、締まりがある。粘性はあり、1mm以下のローム粒子と、3mm以下のロームブロックを多量に含む。焼土、炭化物ともにない。層序4は風成のローム層である。

第2節 平成8年度の調査

遺跡の試掘調査をトレチ法により行った（第2図）。東西に細長い遺跡を調査したが、東側の畑で住居址の床面または土間状遺構と考えられる遺構と、土坑3基を検出した。また、西側の畑からは、土坑が13基検出されている。調査面積としては、東側で1,900m²、西側で2,300m²を対象にする。

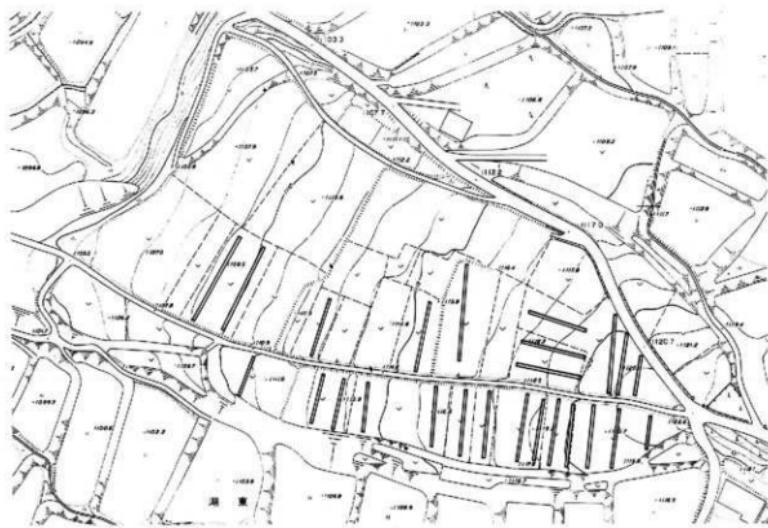
遺物の出土は無かった。

第3節 平成11年度の調査

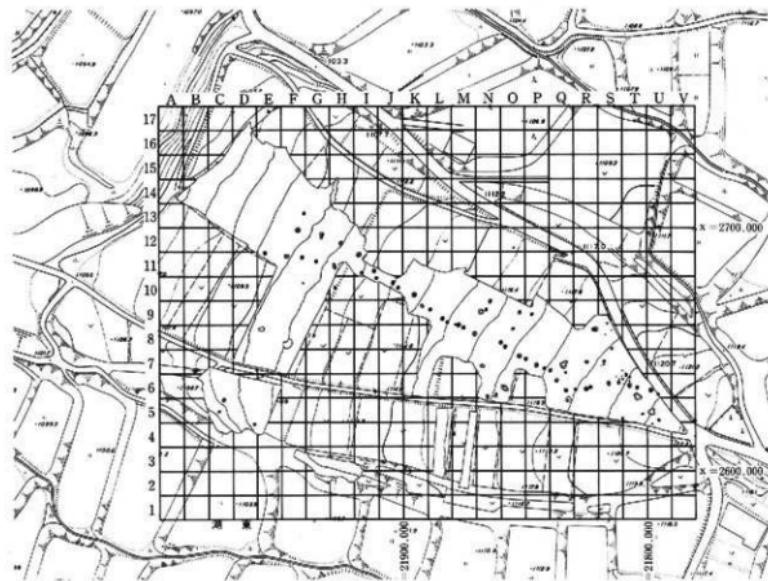
発掘調査区は試掘調査の結果に基づき尾根上の2カ所を設定、発掘調査に着手した。しかし西側の調査区で遺構と捉えた場所一帯が擾乱によるものであることが判明し、遺構の密度も極端に希薄となった。一方、東側の調査区で検出した土坑は連続性を持って西側調査予定区から外れた北側に連なっていることが明らかになったため調査区の設定変更を行い、発掘面積は7,350m²に及んでいる（第3図）。

遺物は黒曜石の石片や縄文土器が少量出土している。

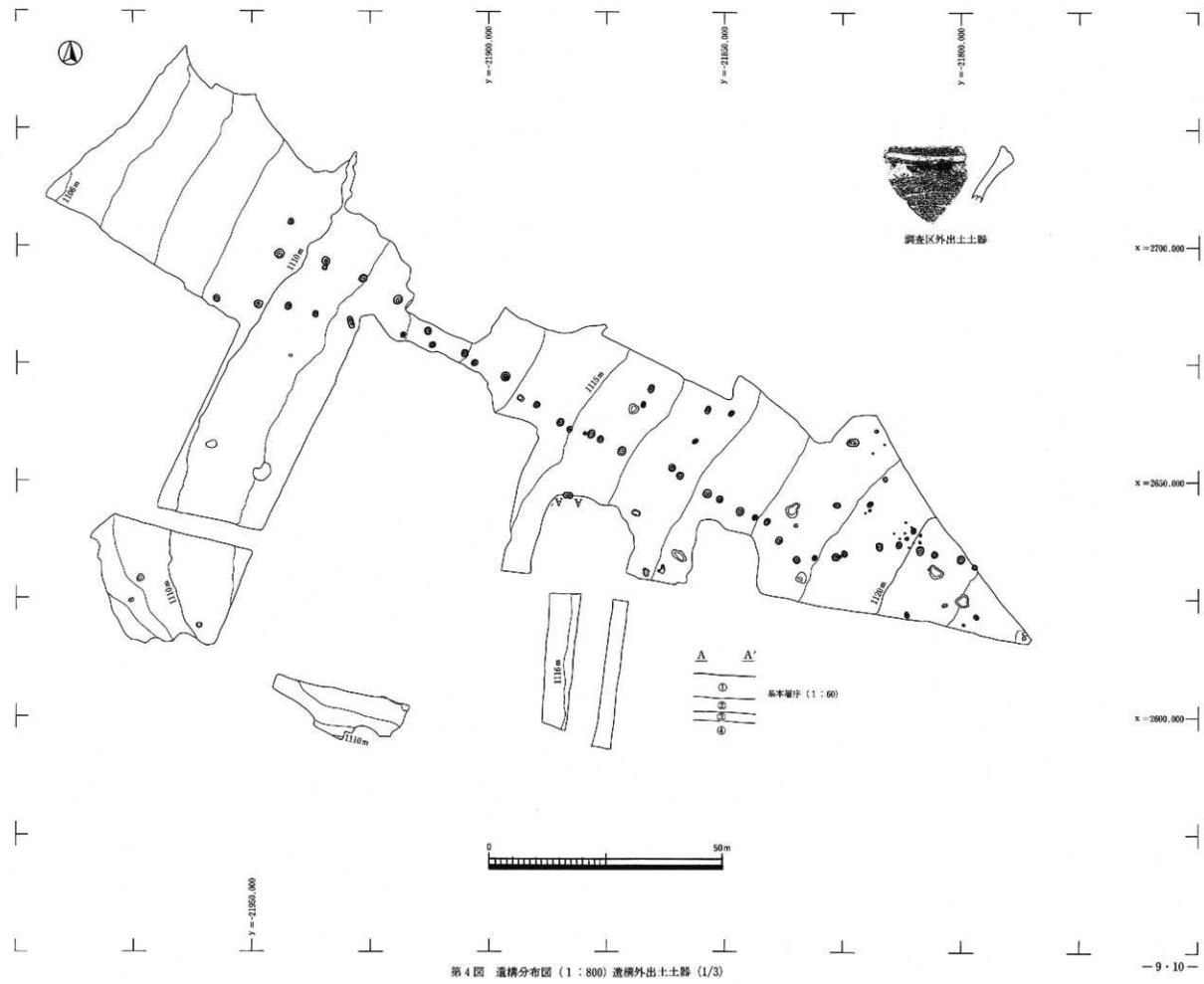
遺構と遺物 遺構の中で、人为的に土中へ穿たれている穴の底面の締まっているものを便宜的に土坑として取り扱っている。土坑番号は検出順に81番まで付けであるが、ロームマウンドの中に土坑として番号を付けたものがあり、整理作業時に欠番とした。また番号を付けた土坑の中で極めて新しい穴についても欠番として理由を記してある。試掘で検出した土間状の床面は表土剥ぎの結果、天地返しの際に重機が方向転換したために黒色土を踏み固めた跡と判明している。ロームマウンド以外の土坑で特色ある土坑を71基記しておく。



第2図 平成8年度下尾根遺跡試掘トレンチ図（1：2,000）



第3図 平成11年度下尾根遺跡発掘調査区及びグリッド設定図（1：2,000）



第4図 造構分布図(1:800) 造構外出土土器(1/3)

1. 第1号土坑（第7図、図版3-①）

U-5グリッドの発掘調査区の東端、北西に向かい緩やかに傾斜する尾根上に位置する。上面は天地返しにより中段の一部まで削られている。検出面は歪んだ隅丸五角形で長径97cm、短径73cm、中段は隅丸方形で長径86cm、短径73cm、底面に向かって若干狭まる筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ隅丸方形を呈し、軸方向はN-40°-W、長径69cm、短径46cm、検出面からの深さは61cm。底面のピットは1基で坑底からの深さは31cmである。遺物の出土は無かった。

2. 第2号土坑（第5図、図版3-②）

第1号土坑北側のU-6グリッドに位置する。土坑の北東側は道路敷き内にあり中段直上まで路盤工事により削られている。光擺は航空測量直前となったが全体として土圧による歪みがでている。検出面は歪んだ隅丸方形で長径103cm、短径96cm。中段も歪んだ隅丸方形で長径84cm、短径79cm、底面に向かって若干狭まる筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ隅丸方形を呈し、軸方向はN-7°-E、長径65cm、短径64cm、検出面からの深さは70cm、底面のピットは1基で坑底からの深さは31cmである。遺物の出土は無かった。

3. 第3号土坑（第5図、図版3-③）

T. U-6グリッドの第2号土坑西側に位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径165cm、短径152cm、中段にかけて擂鉢状を呈す。中段は検出面より細長い歪んだ楕円形で長径120cm、短径89cm、底面に向かって若干狭まる筒状を成し、中段から下の壁面は堅く締まっている。坑底も歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-4°-W、長径113cm、短径81cm。検出面からの深さは92cm、底面のピットは1基で坑底からの深さは31cmである。遺物の出土は無かった。

4. 第5号土坑（第5図、図版3-④）

T-6グリッドの第3号土坑西側に位置する。検出面は歪んだ円形で長径128cm、短径128cm、中段にかけて擂鉢状を呈す。中段は歪みが大きい楕円形で長径89cm、短径77cm、底面に向かって若干狭まる筒状を成し、中段から下の壁面は堅く締まっている。坑底も歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-18°-E、長径78cm、短径55cm。検出面からの深さは76cm、底面のピットは1基で坑底からの深さは26cmである。遺物の出土は無かった。

5. 第6号土坑（第5図、図版3-⑤⑥）

T-6グリッドの第5号土坑西側に位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径181cm、短径160cm。中段にかけて擂鉢状を呈す。中段は歪んだ楕円形で長径139cm、短径88cm、底面に向かって若干狭まる筒状を成し、中段から下の壁面は堅く締まっている。坑底も歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-2°-W、長径120cm、短径76cm。検出面からの深さは66cm、底面のピットは複数基を検出したが掘り進むと下で繋がっている。坑底からの深さは27cmである。遺物の出土は無かった。

6. 第7号土坑（第8図、図版3-⑦）

S-5グリッドの第6号土坑南側に位置する。検出面は歪んだ隅丸台形で長径110cm、短径62cm。底面に向かって若干狭まる筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底も歪んだ隅丸台形を呈し、南側は底面に向かって広がり袋状を呈す軸方向はN-9°-W、長径90cm、短径30cm。検出面からの深さは81cm。底面のピットは1基、坑底からの深さは36cmである。遺物の出土は無かった。

7. 第8号土坑（第7図、図版3-⑧）

第6号土坑の北西側、S. T-6グリッドに位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径117cm、短径100cm、

中段にかけて擂鉢状を呈す。中段は歪んだ隅丸方形で長径93cm、短径63cm、底面に向かって若干狭まる筒状を成し、中段から下の壁面は堅く締まっている。坑底も歪んだ隅丸方形を呈し、軸方向はN-18°-E、長径74cm、短径53cm。検出面からの深さは84cm、底面のビットは1基、坑底からの深さは37cmである。遺物の出土は無かった。

8. 第9号土坑（第8図）

第8号土坑の南西側、S-6グリッドに位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径90cm、短径80cm、皿状を呈し、軸方向はN-55°-E。壁面、底面とともにやや軟弱で、検出面からの深さは14cmである。遺物の出土は無かった。

9. 第10号土坑（第5図、図版4-①）

第9号土坑の南西側、S-6グリッドに位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径136cm、短径114cm、中段にかけて擂鉢状を呈す。中段は歪んだ隅丸方形で長径105cm、短径77cm、底面に向かって若干狭まる筒状を成し、中段から下の壁面は堅く締まっている。坑底も歪んだ隅丸方形を呈し、軸方向はN-4°-W、長径86cm、短径62cm。検出面からの深さは58cm、底面のビットは1基で坑底からの深さは30cmである。遺物の出土は無かった。

10. 第11号～第19号土坑

S、T-6、7グリッドに位置する。ほぼ直行しながら径55cm以下の穴が9個並ぶことから土坑として取り扱ったが、調査後植木を並べて育成した跡であることが判明し欠番とした。

11. 第20号土坑

第6号土坑の北側、T-6グリッドに位置する。土坑として取り扱ったが、調査後植木を並べて育成した跡であることが判明し欠番とした。

12. 第21号土坑（第5図、図版4-②）

第10号土坑の西側、S-6グリッドに位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径161cm、短径128cm、中段にかけて擂鉢状に狭まる。中段は検出面より細長い歪んだ楕円形で長径147cm、短径88cm、底面に向かって若干狭まる筒状を成し、中段から下の壁面は堅く締まっている。坑底も歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-15°-W、長径114cm、短径76cm。検出面からの深さは54cm、底面のビットは1基で形状は舟形を呈し、坑底からの深さは34cmである。遺物の出土は無かった。

13. 第22号土坑

第21号土坑の北側、S-8グリッドに位置する。土坑として取り扱ったが、調査後耕作に伴う擾乱であることが判明し欠番とした。

14. 第23号土坑（第7図、図版4-③）

第21号土坑の北側、S-7グリッドに位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径116cm、短径91cm、中段にかけて擂鉢状を呈し、中段は歪んだ楕円形で長径95cm、短径67cm、底面に向かって若干狭まる筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ隅丸五角形を呈し、軸方向はN-45°-E、長径75cm、短径50cm、検出面からの深さは84cm、底面のビットは1基で平面が歪んだ楕円形の棒状を呈し、坑底からの深さは33cmである。遺物の出土は無かった。

15. 第24・25号土坑

第23号土坑の南側、R、S-7グリッドに位置する。土坑として取り扱ったが、調査後耕作に伴う擾乱であることが判明し欠番とした。

16. 第26号土坑（第8図、図版4-④）

第23号土坑の西側、R-7グリッドに位置する。検出面は歪んだ長円形で長径144cm、短径87cm、中段にかけて若干狭まり、中段も歪んだ長円形で長径131cm、短径67cm、底面に向かって若干狭まる筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は細長く歪んだ長円形を呈し、軸方向はN-86°-W、長径120cm、短径39cm、検出面からの深さは89cm。底面のピットは1基で平面が歪んだ楕円形で棒状を呈し、坑底からの深さは32cmである。遺物の出土は無かった。

17. 第27号土坑（第5図、図版4-⑤）

第26号土坑の南側、R-6グリッドに位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径148cm、短径117cm、中段にかけて擂鉢状に狭まり、中段も歪んだ楕円形で長径119cm、短径81cm、底面に向かって僅かに内湾しながら狭まり、壁面は堅く締まっている。坑底は細長く歪んだ隅丸長方形を呈し、軸方向はN-10°-W、長径105cm、短径57cm、検出面からの深さは65cm。底面のピットは1基で平面が歪んだ楕円形で棒状を呈し、坑底からの深さは44cmである。遺物は繩文時代中期の土器片が2点出土している。

18. 第28号土坑（第5図、図版4-⑥）

R-6グリッドで第27号土坑の西に隣接するようにして西側を第29号土坑と切り合位置する。検出面は歪んだ隅丸長方形で長径85cm、短径62cm、底面に向かって若干狭まる筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は隅丸台形を呈し、軸方向はN-40°-E、長径63cm、短径48cm、検出面からの深さは66cm。底面のピットは1基で平面が歪んだ楕円形で棒状を呈し、坑底からの深さは32cmである。遺物の出土は無かった。

19. 第29号土坑（第5図、図版4-⑦）

R-6グリッドで第28号土坑と東側を切り合って位置し、新旧関係は本土坑が新しい。検出面は歪んだ楕円形で長径160cm、短径138cm、中段にかけて擂鉢状に狭まる。中段は若干細くなる楕円形で長径129cm、短径105cm、底面に向かって若干狭まる筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は中段よりやや細い楕円形を呈し、軸方向はN-17°-W、長径111cm、短径84cm、検出面からの深さは61cm。底面ピットは1基で形状は細長い舟形を成し、坑底からの深さは38cmである。遺物の出土は無かった。

20. 第30号土坑（第5図、図版5-①）

第29号土坑の西側、Q-6グリッドに位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径105cm、短径97cm、中段にかけて僅かに内湾しながら狭まる。中段は幅がせばまり歪んだ楕円形で長径82cm、短径55cm、底面に向かって若干狭まる筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底も歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-1°-W、長径73cm、短径43cm、検出面からの深さは67cm。底面のピットは1基で平面が歪んだ長円形で棒状を呈し、坑底からの深さは44cmである。遺物の出土は無かった。

21. 第32号土坑（第5図、図版5-②）

第30号土坑の西側、Q-6グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径137cm、短径132cm、中段にかけて擂鉢状を呈す。中段は歪んだ楕円形で長径116cm、短径94cm、底面に向かって若干狭まる筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底面は若干凹凸があり歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-50°-W、長径105cm、短径78cm、検出面からの深さは84cm。底面のピットは1基で、平面は不正形の棒状を呈し、坑底からの深さは24cmである。遺物の出土は無かった。

22. 第33号土坑（第5図、図版5-③）

第32号土坑の北西側、Q-6グリッドに位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径152cm、短径134cm、中段にかけて内湾しながら狭まり、中段は歪んだ楕円形で長径81cm、短径74cm、底面に向かって若干狭まる盆状

を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は隅丸平行四辺形を呈し、軸方向はN-38°-E、長径70cm、短径58cm、検出面からの深さは63cm。底面のピットは1基で棒状を呈し、坑底からの深さは34cmである。遺物の出土は無かった。

23. 第35号土坑（第6図、図版5-④⑤）

第23号土坑の西側、O-7グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径170cm、短径165cm、中段にかけて擂鉢状で細長く狭まり、中段は歪んだ楕円形で長径113cm、短径84cm、底面に向かって若干狭まる盆状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-19°-E、長径102cm、短径76cm、検出面からの深さは84cm。底面のピットは1基で平面が歪んだ楕円形の棒状を呈し、坑底からの深さは34cmである。遺物の出土は無かった。

24. 第36号土坑（第8図、図版5-⑥）

第35号土坑の北側、P-9グリッドに位置する。検出面は歪んだ長円形で長径127cm、短径83cm、底面に向かって筒状を成し若干狭まり、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ隅丸長方形を呈し、軸方向はN-43°-E、長径83cm、短径35cm、検出面からの深さは110cm。底面のピットは1基で棒状を呈し、坑底からの深さは44cmである。遺物の出土は無かった。

25. 第37号土坑（第8図、図版5-⑦）

第36号土坑の西側、O-9グリッドに位置し、南東を第41号土坑により切られている。検出面は歪んだ楕円形で長径143cm、短径94cm、中段にかけて擂鉢状で細長く狭まり、中段は歪んだ長円形で長径125cm、短径52cm、底面に向かって若干狭まる筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ隅丸長方形を呈し、軸方向はN-23°-E、長径94cm、短径36cm、検出面からの深さは147cm。底面のピットは1基で平面が歪んだ楕円形の棒状を呈し、坑底からの深さは35cmである。遺物の出土は無かった。

26. 第41号土坑（第8図）

第37号土坑と西側が切合い、S-7グリッドに位置する。新旧関係は深さの浅い本土坑が新である。検出面は歪んだ円形で長径107cm、短径101cm、皿状を呈し、壁面は堅く締まっている。底面も歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-58°-E、長径96cm、短径87cm、検出面からの深さは27cmである。遺物の出土は無かった。

27. 第38号土坑（第8図、図版5-⑧）

第35号土坑の北側、O-8グリッドに位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径114cm、短径88cm、中段にかけて擂鉢状で細長く狭まり、中段は歪んだ楕円形で長径92cm、短径53cm、底面に向かって若干狭まる筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は隅丸長方形を呈し、軸方向はN-56°-E、長径76cm、短径32cm、検出面からの深さは67cm。底面のピットは1基で平面が歪んだ楕円形の棒状を呈し、坑底からの深さは27cmである。遺物の出土は無かった。

28. 第39号土坑（第6図、図版6-①）

第35号土坑の北西側、N、O-8グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径148cm、短径142cm、中段にかけて擂鉢状で若干細くなり、中段は歪んだ楕円形で長径97cm、短径85cm、底面に向かって若干狭まる盆状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-38°-E、長径87cm、短径76cm、検出面からの深さは68cm。底面のピットは1基で平面が歪んだ楕円形の棒状を呈し、坑底からの深さは26cmである。遺物の出土は無かった。

29. 第40号土坑（第6図、図版6-②）

第39号土坑の北西側、N-8グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径155cm、短径147cm、中段に

かけて擂鉢状で若干細くなり、中段は歪んだ楕円形で長径112cm、短径86cm、底面に向かって若干狭まる盆状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-28°-E、長径104cm、短径77cm、検出面からの深さは77cm。底面のピットは1基で平面が歪んだ長円形の筒状を呈し、坑底からの深さは27cmである。遺物の出土は無かった。

30. 第45号土坑（第8図、図版6-③）

第37号土坑の北西側、N-9、10グリッドに位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径161cm、短径115cm、中段にかけて朝顔状で細長く窄まり、中段は歪んだ隅丸長方形で長径122cm、短径50cm、底面に向かって若干狭まる筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底も歪んだ隅丸長方形を呈し、軸方向はN-17°-E、長径110cm、短径37cm、検出面からの深さは141cm。底面のピットは1基で平面が歪んだ楕円形の棒状を呈し、坑底からの深さは31cmである。遺物の出土は無かった。

31. 第46号土坑（第7図、図版6-④）

第45号土坑の南西側、N-9グリッドに位置する。検出面は歪んだ隅丸長方形で長径108cm、短径79cm、中段にかけて擂鉢状を呈し、中段は歪んだ隅丸長方形で長径91cm、短径58cm、底面に向かって若干狭まる筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底も隅丸で中央が絞れた鼓形を呈し、軸方向はN-17°-E、長径83cm、短径52cm、検出面からの深さは60cm。底面のピットは1基で棒状を呈し、坑底からの深さは29cmである。遺物の出土は無かった。

32. 第48号土坑（第6図、図版6-⑤）

第40号土坑の西側、M-8グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径174cm、短径157cm、中段にかけて内湾しながら若干細く狭まり、中段は歪んだ楕円形で長径110cm、短径86cm、底面に向かって若干狭まる盆状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底も歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-22°-E、長径104cm、短径80cm、検出面からの深さは89cm。底面のピットは1基で平面が歪んだ楕円形の棒状を呈し、坑底からの深さは30cmである。遺物の出土は無かった。

33. 第49号土坑

第40号土坑の南西側、N-7グリッドに位置する。検出面は歪んだ隅丸台形で長径188cm、短径119cm、皿状を呈す。底面も隅丸台形で長径160cm、短径87cm、底面は丸みを持って若干凹み、軸方向はN-68°-E、検出面からの深さは38cm。遺物の出土は無かった。

34. 第50号土坑（第6図、図版6-⑥）

第48号土坑の西側、M-8グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径138cm、短径126cm、中段にかけて擂鉢状で若干細くなり、中段は歪んだ楕円形で長径87cm、短径73cm、底面に向かって若干狭まる盆状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-37°-E、長径80cm、短径64cm、検出面からの深さは67cm。底面のピットは1基で棒状を呈し、坑底からの深さは35cmである。遺物の出土は無かった。

35. 第51号土坑（第6図、図版6-⑦）

第50号土坑の西側、M-8、9グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径168cm、短径156cm、中段にかけて擂鉢状を呈し、中段は歪んだ楕円形で長径114cm、短径100cm、底面に向かって若干狭まる筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ隅丸五角形を呈し、軸方向はN-2°-W、長径96cm、短径80cm、検出面からの深さは83cm。底面のピットは1基で平面が歪んだ楕円形の棒状を呈し、坑底からの深さは35cmである。遺物の出土は無かった。

36. 第52号土坑（第8図、図版6-⑧）

第51号土坑の西隣、M-8、9グリッドに位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径76cm、短径64cm、皿状を呈す。底面も歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-19°-E、長径55cm、短径50cm、検出面からの深さは19cm。遺物の出土は無かった。

37. 第53号土坑（第6図、図版7-①）

第52号土坑の西側、L-9グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径104cm、短径103cm、中段にかけて擂鉢状を呈し、中段は歪んだ楕円形で長径92cm、短径77cm、底面に向かって若干狭まる筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底も歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-8°-E、長径71cm、短径63cm、検出面からの深さは56cm。底面のピットは1基で平面が歪んだ楕円形の棒状を呈し、坑底からの深さは40cmである。遺物の出土は無かった。

38. 第54号土坑（第8図、図版7-②）

第26号土坑の北側、R-8グリッドに位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径235cm、短径153cm、中段にかけて擂鉢状で細長く狭まる。中段は歪んだ扇丸長方形で長径187cm、短径82cm、底面に向かって若干狭まる筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は中央付近に低い段が付き、僅かに中央が括れる菱形を呈す。軸方向はN-82°-W、長径171cm、短径49cm、検出面からの深さは80cm。底面のピットは2基でいずれも平面が不正形の棒状を呈し、坑底からの深さは東が37cm、西が43cmである。遺物の出土は無かった。

39. 第55号土坑（第5図、図版7-③）

第33号土坑の北西側、P-7グリッドに位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径137cm、短径120cm、中段にかけて擂鉢状を呈し、中段は歪んだ楕円形で長径114cm、短径86cm、底面に向かって筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底も歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-17°-E、長径107cm、短径80cm、検出面からの深さは69cm。底面のピットは1基で平面が歪んだ長円形の棒状を呈し、坑底からの深さは38cmである。遺物の出土は無かった。

40. 第56号土坑（第5図、図版7-④）

第55号土坑の西側、P-7グリッドに位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径111cm、短径100cm、中段にかけて擂鉢状を呈し、中段は検出面より歪んだ楕円形で長径81cm、短径68cm、底面に向かって筒状を成し南西側は若干袋状を呈す。壁面は堅く締まっている。坑底も歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-34°-E、長径78cm、短径67cm、検出面からの深さは57cm。底面のピットは1基、平面楕円形で棒状を呈し、坑底からの深さは43cmである。遺物の出土は無かった。

41. 第57号土坑（第5図、図版7-⑤）

第56号土坑の西側、P-7グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径167cm、短径153cm、中段にかけて擂鉢状で細長く狭まり、中段は歪んだ楕円形で長径117cm、短径96cm、底面に向かって筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底も歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-3°-E、長径107cm、短径80cm、検出面からの深さは81cm。底面のピットは1基、平面不正形で棒状を呈し、坑底からの深さは36cmである。遺物の出土は無かった。

42. 第58号土坑（第5図、図版7-⑥）

第48号土坑の西側、O-7グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径137cm、短径132cm、中段にかけて擂鉢状で若干細長く狭まり、中段は歪んだ長円形で長径90cm、短径80cm、底面に向かって筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-15°-E、長径83cm、短径74cm、検出面

からの深さは63cm。底面のビットは1基、平面楕円形で棒状を呈し、坑底からの深さは42cmである。遺物の出土は無かった。

43. 第59号土坑（第6図、図版7-⑦）

第59号土坑の北西側、L-9グリッドに位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径160cm、短径135cm、中段にかけて内湾しながら細長く狭まる。中段は歪んだ楕円形で長径122cm、短径85cm、底面に向かって若干狭まる盆状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-32°-E、長径112cm、短径68cm、検出面からの深さは67cm。底面のビットは1基で棒状を呈し、坑底からの深さは35cmである。遺物の出土は無かった。

44. 第60号土坑（第6図、図版7-⑧）

第59号土坑の北西側、K L-9グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径128cm、短径118cm、中段にかけて擂鉢状で若干細長く狭まり、中段は歪んだ隅丸長方形で長径89cm、短径75cm、底面に向かって筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底も歪んだ隅丸長方形を呈し、軸方向はN-35°-E、長径82cm、短径69cm、検出面からの深さは56cm。底面のビットは1基、平面楕円形で棒状を呈し、坑底からの深さは35cmである。遺物の出土は無かった。

45. 第62号土坑（第6図、図版8-①）

第60号土坑の北西側、K-10グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径183cm、短径173cm、中段にかけて擂鉢状で細長く狭まり、中段は歪んだ楕円形で長径124cm、短径95cm、底面に向かって若干狭まる盆状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ長円形を呈し、軸方向はN-10°-W、長径107cm、短径70cm、検出面からの深さは79cm。底面のビットは1基、不正形で棒状を呈し、坑底からの深さは33cmである。遺物の出土は無かった。

46. 第63号土坑（第6図、図版8-②）

第62号土坑の西側、J-10グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径123cm、短径112cm、中段にかけて擂鉢状で細長く狭まり、中段は歪んだ楕円形で長径95cm、短径76cm、底面に向かって筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-39°-E、長径86cm、短径66cm、検出面からの深さは58cm。底面のビットは1基で棒状を呈し、坑底からの深さは30cmである。遺物の出土は無かった。

47. 第64号土坑（第6図、図版8-③）

第63号土坑の北西側、J-10グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径139cm、短径130cm、中段にかけて擂鉢状で若干細長く狭まり、中段は歪んだ長円形で長径113cm、短径83cm、底面に向かって筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底も歪んだ長円形を呈し、軸方向はN-11°-E、長径103cm、短径73cm、検出面からの深さは79cm。底面のビットは1基、平面は細長い不正形で棒状を呈し、坑底からの深さは31cmである。遺物の出土は無かった。

48. 第65号土坑（第6図、図版8-④）

第64号土坑の西側、I-10グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径108cm、短径105cm、中段にかけて擂鉢状を呈し、中段は歪んだ隅丸台形で長径88cm、短径76cm、底面に向かって筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底も歪んだ隅丸台形を呈し、軸方向はN-46°-E、長径80cm、短径72cm、検出面からの深さは61cm。底面のビットは1基、平面隅丸三角形で棒状を呈し、坑底からの深さは35cmである。遺物の出土は無かった。

49. 第66号土坑（第6図、図版8-⑤）

第65号土坑の北側、I-11グリッドに位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径145cm、短径128cm、中段にかけて擂鉢状で若干細長く狭まり、中段は歪んだ長円形で長径118cm、短径99cm、底面に向かって筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-5°-E、長径104cm、短径82cm、検出面からの深さは79cm。底面のピットは1基、平面は細長い不正形で棒状を呈し、坑底からの深さは31cmである。遺物の出土は無かった。

50. 第67号土坑（第7図、図版8-⑥）

第66号土坑の西側、I-11グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径103cm、短径95cm、中段にかけて擂鉢状を呈し、中段は歪んだ楕円形で長径91cm、短径76cm、底面に向かって筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ長円形を呈し、軸方向はN-2°-W、長径83cm、短径64cm、検出面からの深さは43cm。底面のピットは1基で棒状を呈し、坑底からの深さは34cmである。遺物の出土は無かった。

51. 第68号土坑（第7図、図版8-⑦）

第67号土坑の北側、H-I-11グリッドに位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径187cm、短径159cm、中段にかけて凹凸があり狭まる。中段は歪んだ楕円形で長径119cm、短径86cm、底面に向かって筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-43°-E、長径112cm、短径80cm、検出面からの深さは95cm。底面のピットは1基、平面は歪んだ楕円形で棒状を呈し、坑底からの深さは46cmである。遺物の出土は無かった。

52. 第69号土坑（第8図、図版8-⑧）

第67号土坑の西側、H-I-11グリッドに位置する。検出面は歪んだ隅丸長方形で長径227cm、短径107cm、中段にかけてより細長く狭まる。中段は隅丸で狭長な隅丸長方形で長径182cm、短径48cm、底面に向かって筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-15°-W、長径170cm、短径38cm、検出面からの深さは71cm。底面のピットは中央から北寄りに1基、平面は不正形で棒状を呈し、坑底からの深さは35cmである。遺物の出土は無かった。

53. 第70号土坑（第7図、図版9-①）

第67号土坑の北側、H-I-12グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径163cm、短径155cm、中段にかけて擂鉢状で若干細長く狭まる。中段は歪んだ楕円形で長径115cm、短径85cm、底面に向かって筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-33°-E、長径106cm、短径78cm、検出面からの深さは89cm。底面のピットは1基、平面は歪んだ楕円形で棒状を呈し、坑底からの深さは39cmである。遺物の出土は無かった。

54. 第71号土坑（第7図、図版9-②）

第69号土坑の西側、G-I-11グリッドに位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径124cm、短径108cm、中段にかけて擂鉢状に狭まる。中段は歪んだ長円形で長径84cm、短径65cm、底面に向かって筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底も歪んだ長円形を呈し、軸方向はN-8°-E、長径74cm、短径60cm、検出面からの深さは73cm。底面のピットは1基、平面は歪んだ楕円形で棒状を呈し、坑底からの深さは25cmである。遺物の出土は無かった。

55. 第72号土坑（第7図、図版9-③）

第71号土坑の北側、G-I-12グリッドに位置し、北側に第73号土坑が隣接するが、接する部分が擾乱の影響により新旧関係は判明しなかった。検出面は歪んだ楕円形で長径120cm、短径が90cm以上、盆状で、底面も歪

んだ楕円形を呈する。軸方向はN-65°-W、長径82cm、短径70cm以上、検出面からの深さは31cmである。遺物の出土は無かった。

56. 第73号土坑（第7図、図版9-④）

第72号土坑の北側に隣接し、G-12グリッドに位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径172cm、短径158cm、中段に擂鉢状に狹まる。中段は歪んだ楕円形で長径107cm、短径80cm、底面に向かって筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ楕円形を呈し、軸方向はN-8°-W、長径99cm、短径68cm、検出面からの深さは72cm。底面のピットは1基、平面は歪んだ楕円形で棒状を呈し、坑底からの深さは44cmである。遺物の出土は無かった。

57. 第74号土坑（第7図、図版9-⑤）

第73号土坑の南西側、F-11グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径137cm、短径124cm、中段にかけて擂鉢状で若干細長く狹まる。中段は歪んだ楕円形で長径106cm、短径78cm、底面に向かって筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ長円形を呈し、軸方向はN-6°-E、長径90cm、短径68cm、検出面からの深さは56cm。底面のピットは1基、平面は歪んだ楕円形で棒状を呈し、坑底からの深さは35cmである。遺物の出土は無かった。

58. 第75号土坑（第7図、図版9-⑥）

第74号土坑の北側、F-12グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径186cm、短径194cm、中段にかけて擂鉢状で絆長く狹まる。中段は歪んだ隅丸長方形で長径113cm、短径89cm、底面に向かって筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ長円形を呈し、軸方向はN-22°-W、長径100cm、短径76cm、検出面からの深さは86cm。底面のピットは1基、平面は歪んだ楕円形で棒状を呈し、坑底からの深さは44cmである。遺物の出土は無かった。

59. 第76号土坑（第8図、図版9-⑦）

第75号土坑の北側、F-13グリッドに位置する。検出面は歪んだ隅丸五角形で長径121cm、短径105cm、中段にかけて擂鉢状で東は外湾、西は内湾しながら狹まる。中段は中央が若干細くなったバチ形になり長径87cm、短径38cm、底面に向かって筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底もバチ形を呈し、軸方向はN-6°-W、長径66cm、短径26cm、検出面からの深さは89cm。底面のピットは1基、平面は歪んだ楕円形で棒状を呈し、坑底からの深さは37cmである。遺物の出土は無かった。

60. 第77号土坑（第7図、図版9-⑧）

第74号土坑の西側、F-11グリッドに位置する。検出面は歪んだ楕円形で長径158cm、短径142cm、北東側に動物の巣穴による搅乱があり、中段にかけては擂鉢状に狹まる。中段は歪んだ長円形で長径98cm、短径78cm、底面に向かって筒状で北東側は袋状に脛らみ、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ長円形を呈し、軸方向はN-8°-W、長径94cm、短径70cm、検出面からの深さは69cm。底面のピットは1基、平面は歪んだ楕円形で棒状を呈し、坑底からの深さは31cmである。遺物の出土は無かった。

61. 第78号土坑（第7図、図版10-①②）

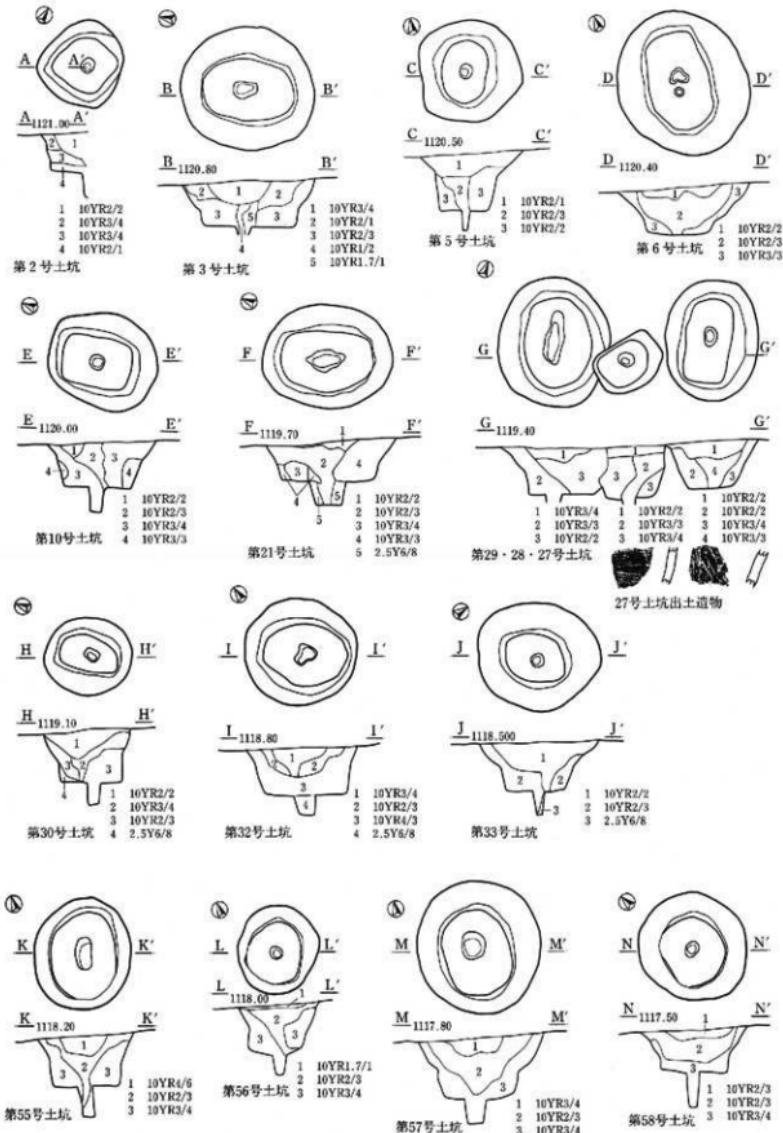
第74号土坑の西側、E-11グリッドに位置する。検出面は歪んだ円形で長径142cm、短径133cm、中段にかけて擂鉢状で細長く狹まる。中段は歪んだ長円形で長径103cm、短径73cm、底面に向かって筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ長円形を呈し、軸方向はN-29°-W、長径92cm、短径65cm、検出面からの深さは76cm。底面のピットは1基、平面は歪んだ楕円形で棒状を呈し、坑底からの深さは29cmである。遺物の出土は無かった。

62. 第79号土坑（第8図、図版10-③④）

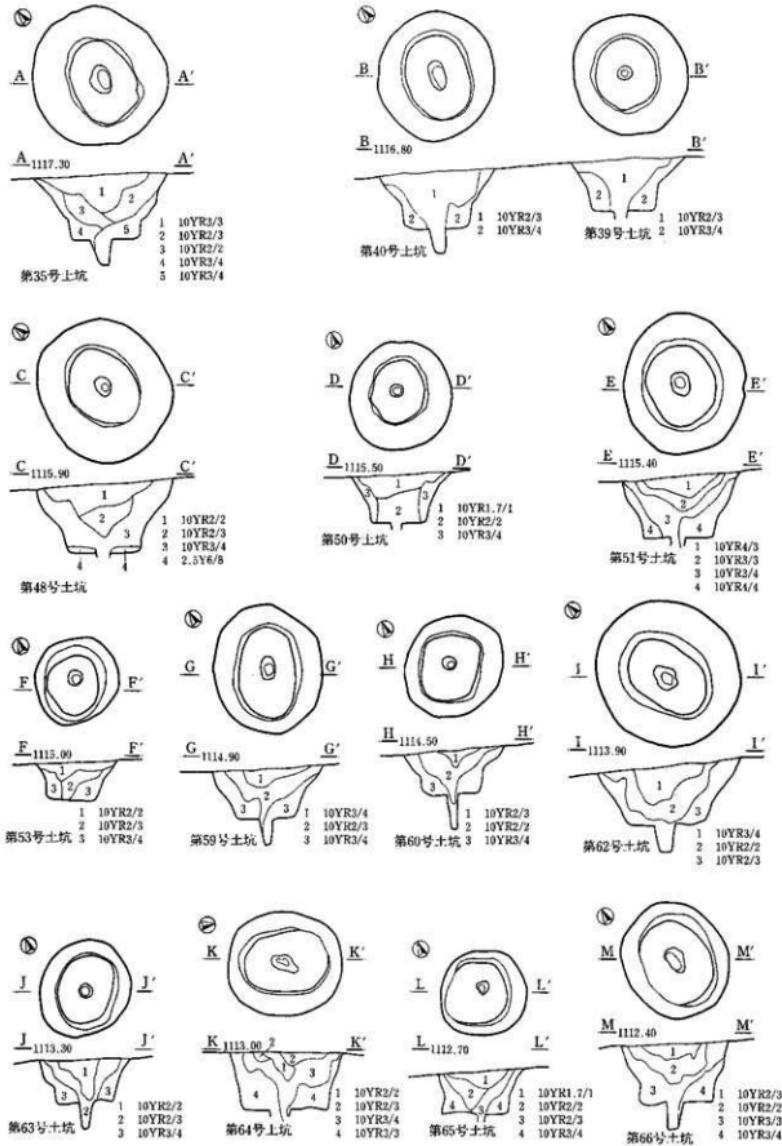
台地西の先端近くで尾根に直行する浅い谷の南西向き斜面肩の、D-4グリッドに位置する。検出面は若干歪んだ円形で長径111cm、短径105cm、底面に向かって筒状を成し、壁面は堅く締まっている。坑底は歪んだ円形を呈し、軸方向はN-22°-W、長径92cm、短径83cm、検出面からの深さは57cmである。遺物の出土は無かった。

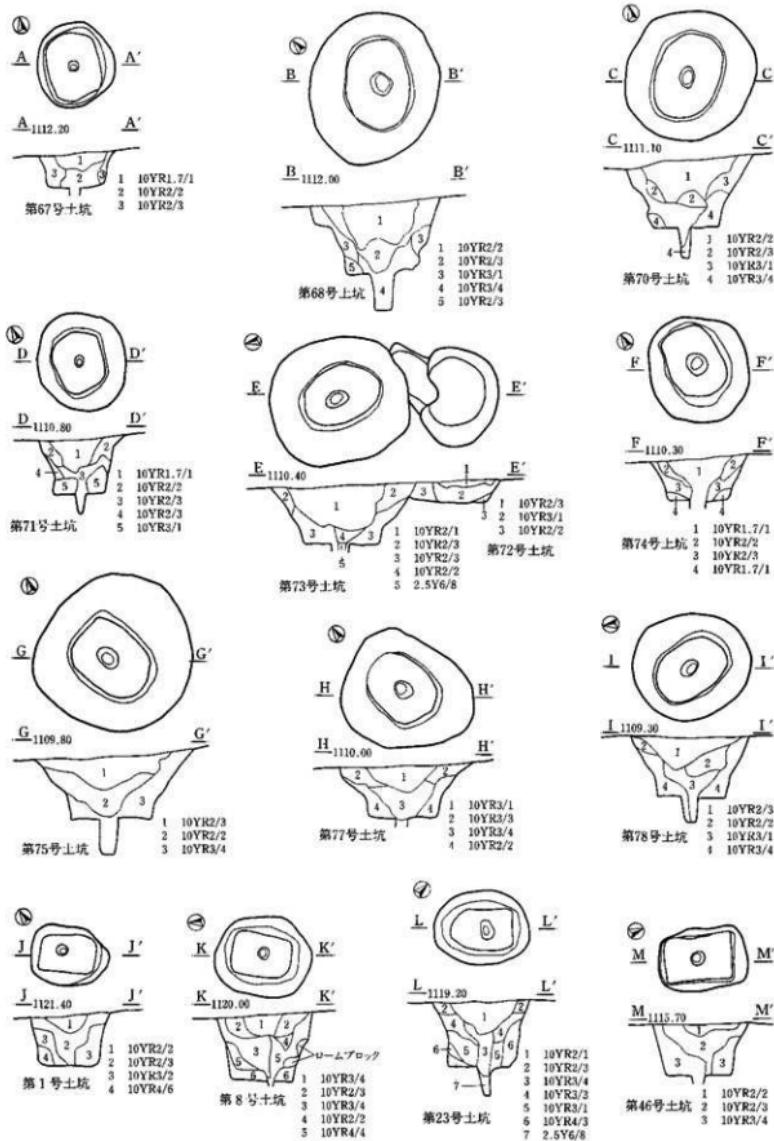
調査区外の遺物（第4図）

調査区外ではあるがJ-12グリッドを踏査した際、縄文時代後期の土器口縁が出土している。

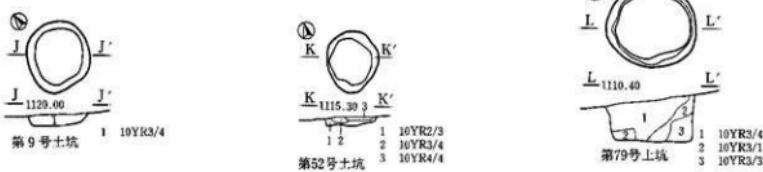
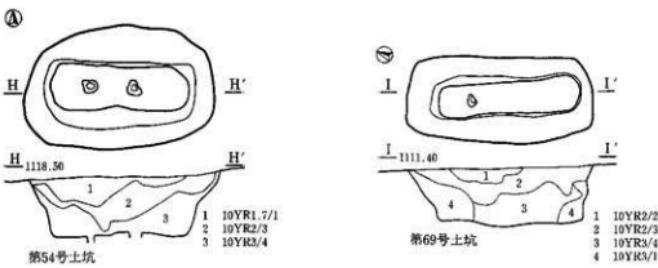
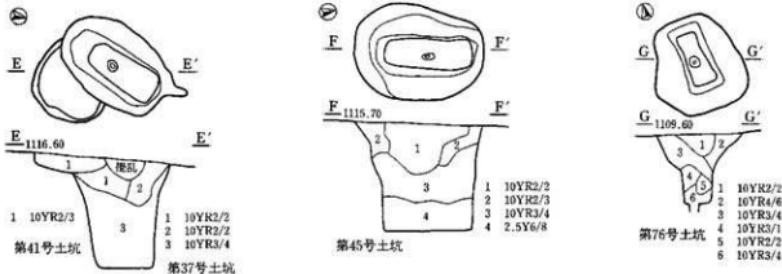
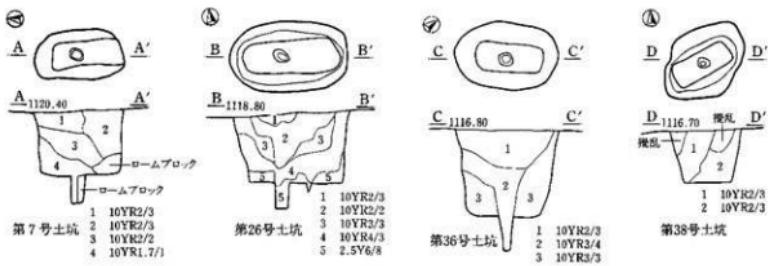


第5図 第2・3・5・6・10・21・29・28・27・30・32・33・35・36・37・38号土坑 (1/60) 27号土坑出土遺物 (1/3)





第7図 第67・68・70・71・73・72・74・75・77・78・1・8・23・46号土坑(1/60)



第8図 第7・26・36・38・41・37・45・76・54・69・9・52・79号土坑 (1/60)

第IV章 まとめ

茅野市のはば中央で、集落東端の笠原にある下尾根遺跡は、発掘調査が実施されていなかったため、性格は未解明であった。発掘調査前には地元の方から「黒曜石はよく拾ったが土器は見たことが無い。」と指摘を受けていた。試掘調査でも遺物の発見は無く、7,000m²を越える発掘調査区から遺物は黒曜石片と縄文時代中期の土器片2点が出土し、調査区外の踏査で縄文時代後期の土器片1点が表面採集できただけである。遺物が少なく検出された遺構で遺跡の性格を把握するには立地、環境と周辺の遺跡が重要となる。下尾根遺跡の地形は台地の幅が広く、北西方向に緩やかな勾配を持つ傾斜面にある。しかし、湧水はほとんど無く、冬になると諏訪湖を渡る冷たい北西風が、霧ヶ峰山塊を越え、尾根に向かって吹き上ぐるため寒く、現代より温暖であった縄文時代においても極めて住み難かったと思われる。笠原は近年、宅地が広がっているが、区内の山林に隣接している耕作地では鹿による食害が著しく、耕作放棄に至る田畠が増えている。さらに調査区の東隣には江戸時代以前より祀られている鹿狩社があり、縄文時代は現在以上に鹿、猪が生息し、そのほかの獣を始めとする山の幸も豊かであったと想定できよう。

下尾根遺跡の遺構で最も多いのは落し穴である。形態は、上面が円形あるいは楕円形で、中段にかけて鐘鉢形を呈し、中段からは平面が楕円形か隅丸方形あるいは糸巻形で筒形を成し底面に続いている。底面の中央付近には1穴がある。茅野市における落し穴の詳細分類は1995年『梵天原遺跡』の報告書で行っており、本遺跡を主構成している土坑は同分類の第1群2類と同類であると思われる。類型の落し穴は間隔が最長でも10m以内で、一列、あるいは複列となり、土坑東西方向に180m連続して見つかっている。落し穴は、一部に重複を認められるが土坑の配列状況等の立地と形状から、ほぼ同期、あるいは短期間に構築されたと考えられる。落し穴列の範囲は西側限界が調査区内で終わっていると思われるが、東は鹿狩社側にまだ続いている可能性がある。なお発掘調査区外ではあるが東調査区の道路北側と西調査区に隣接する畑の北側については切土工事に伴う表土剥ぎの際、立ち合い調査を実施している。結果、遺構、遺物とともに無く、調査区外の南北には同様の落し穴列は存在せず、立地に対する施設としての密度は薄い。以上から、下尾根遺跡は生産域の狩猟場として落し穴という狩猟設備を持ってはいたが、長期間にわたり機能を継続させていなかったと想定できるのではないかろうか。下尾根遺跡の落し穴の性格分析には、調査区から東側に約1.6km離れ、同様の狩猟場遺跡として捉えられている笠原上第1遺跡と笠原上第2遺跡の発掘結果が重要になる。両遺跡は長野県埋文センターにより発掘調査され、縄文時代の落し穴群が検出されている。立地は本遺跡と同様尾根に並行するという共通点がある。正式報告はされていないが主体を成す土坑形状は、上面形が長楕円形（隅丸長方形を含む）で底面は方形を呈し、底部施設として小ピットを有するものが圧倒的に多く、土坑の長辺に沿ってロームブロックを主体とする土層を底面から垂直に立ち上げ張り付けていることから、意識的に土坑の幅を狭めようとしたのではないかと落し穴の構造を分析している。下尾根遺跡で落し穴列を主構成しているのは前記形状の土坑であるが、完掘の結果、笠原上第1・第2遺跡で主構成をしている落し穴と近似形を呈するものも2基ある。しかし、分層の結果はほとんどの落し穴で黒褐色土のレンズ状堆積が認められ、ロームブロックの張り付けはほとんど見られないため、両遺跡の落し穴とは明らかに構築方法が異なると考えたい。構築の差違が狩猟対象物によるか、時間差なのかは今後の検討課題である。

下尾根遺跡発掘調査区の西端から700m離れた角名川の対岸に八ヶ岳西麓の撲点的な集落遺跡のひとつである長峯遺跡が位置している。長峯遺跡は平成11・12年度に長野県埋文センターにより発掘調査され、

縄文時代中期だけでも219軒の住居址が見つかっている。長峯遺跡から西に300m離れた尾根続きには縄文時代中・後期の大集落である型石遺跡があり、平成9年から11年度に茅野市教育委員会と同センターで100余軒の住居址を発掘調査している。両遺跡はいずれも本遺跡から歩いて10数分の距離に位置することになる。一方、下尾根遺跡には住居址が一軒も無く居住域の遺跡ではない。以上の結果から下尾根遺跡は角名川で居住域の聚落遺跡とは画されているが、同一生活域内で狩猟場的な領域分担を持つ生産域の遺跡であると判明した。

最後には場整備事業により埋滅してしまった下尾根遺跡は、地元においても関心が高く、今回の発掘調査に当たっては関係各位からご高配、ご協力を得られ、その中には参考になることも多々あり感謝する次第である。しかし諸々の事情により実質的な整理作業は短期間で行わなければならず分析、考察面では不十分な点があり、多く課題を残す結果となった。下尾根遺跡の全容解明に向けては遺跡東側の範囲把握や、周辺の遺跡との関係等で未だ不明な事もあり、今後稿を改める予定である。

引用参考文献

- 伊藤栄治 1942 「鹿狩社附近の史跡」『郷土』第4巻第36號
- 信濃史料刊行會 1956年 『信濃史料第1卷上』
- 宮坂英次 1961 「原始時代」『湖東村史』湖東公民館
- 長野県教育委員会 1980 「八ヶ岳西南麓遺跡群分布調査報告書 昭和54年度」
- 茅野市教育委員会 1986 『茅野市史 上巻 原始・古代』
- 信長野県史刊行會 1988 『長野県史 考古資料編 全一巻(四) 遺構・遺物』
- 堀内清七 1981 『篠原のあゆみ』湖東公民館
- 茅野市教育委員会 1991 『茅野市遺跡台帳』
- 茅野市教育委員会 1995 『上の平遺跡』
- 茅野市教育委員会 1996 『梵天原遺跡』
- 宇賀神誠司・桜井秀雄 1997 「篠原上第1・第2遺跡」『長野県埋蔵文化財センター年報13 1996』
長野県埋蔵文化財センター
- 宇賀神誠司・広瀬昭弘 1998 「篠原上第1・第2遺跡」『長野県埋蔵文化財センター年報14 1997』
長野県埋蔵文化財センター
- 茅野市教育委員会 1999 『師岡平遺跡』

図 版

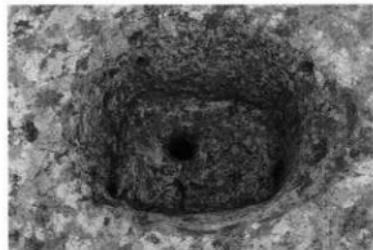


①十勝沖縄台地区遠景（南西側から）



②先振開拓区全景 中央上方の森が鹿狩山（西側から）

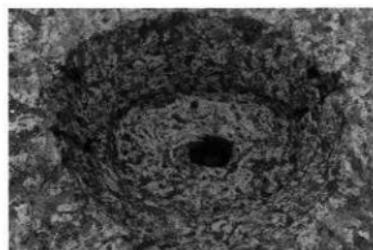




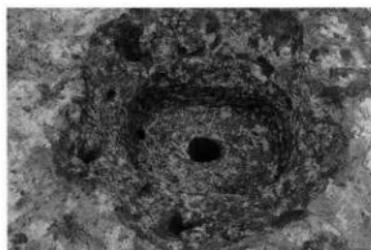
①第1号土坑



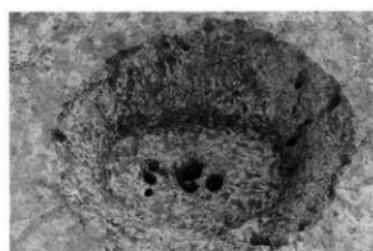
②第2号土坑



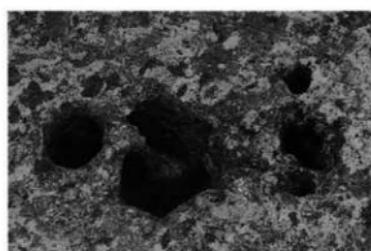
③第3号土坑



④第5号土坑



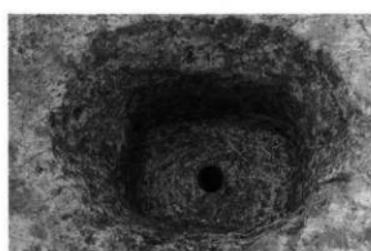
⑤第6号土坑



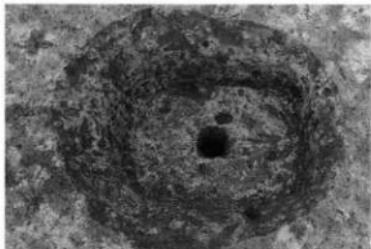
⑥第6号土坑坑底ピット



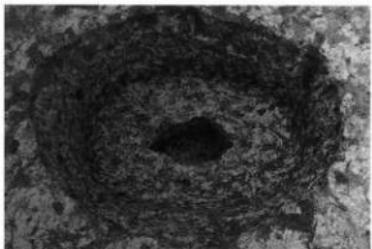
⑦第7号土坑



⑧第8号土坑



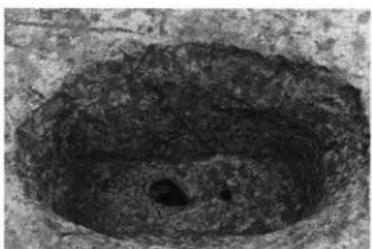
①第10号土坑



②第21号土坑



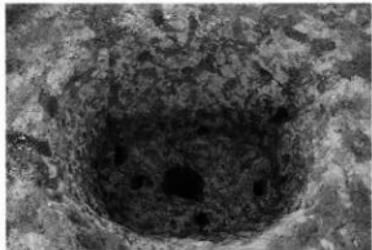
③第23号土坑



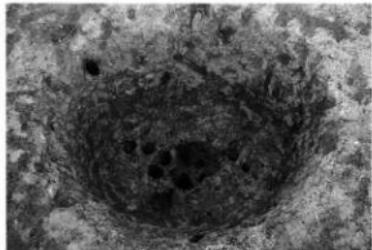
④第26号土坑



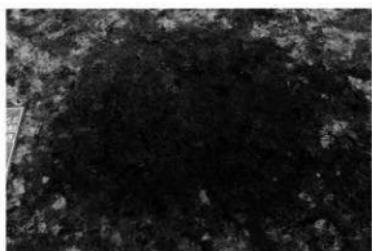
⑤第29号、第28号、第27号土坑



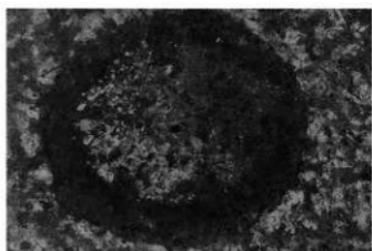
①第30号土坑



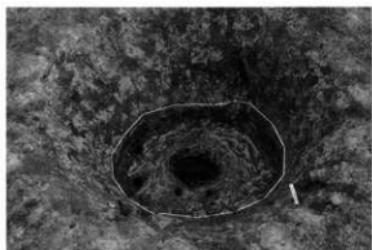
②第32号土坑



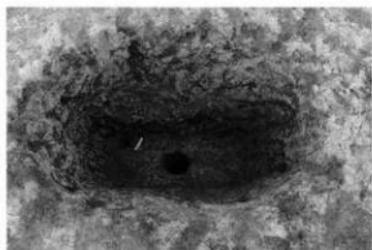
③第33号土坑检出状况



④第35号土坑检出状况



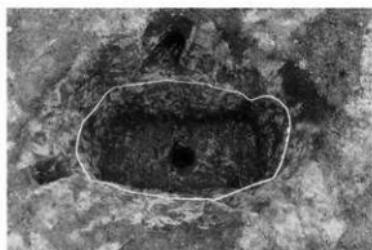
⑤第35号土坑



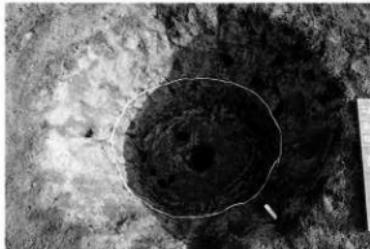
⑥第36号土坑



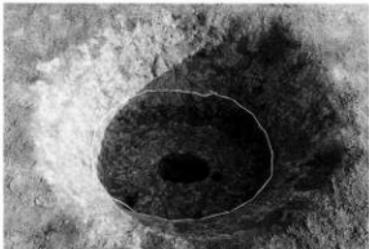
⑦第37号土坑



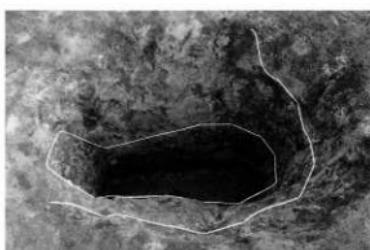
⑧第38号土坑



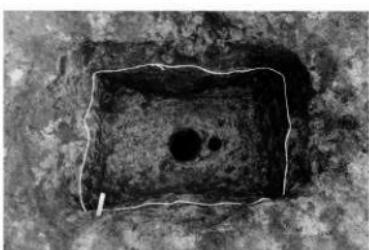
①第39号土坑



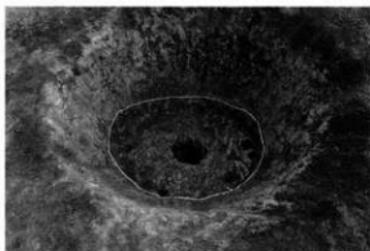
②第40号土坑



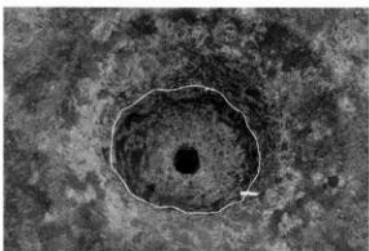
③第45号土坑



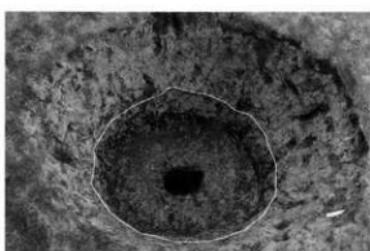
④第46号土坑



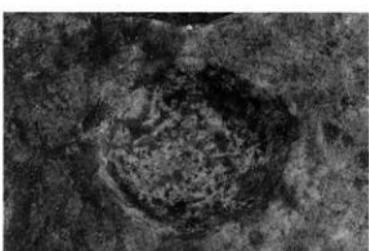
⑤第48号土坑



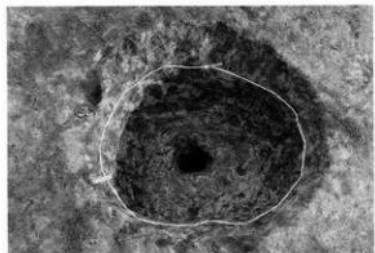
⑥第50号土坑



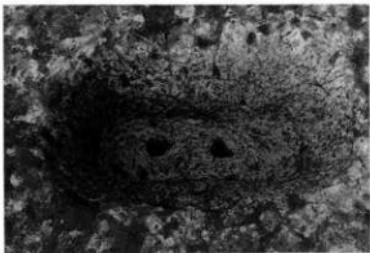
⑦第51号土坑



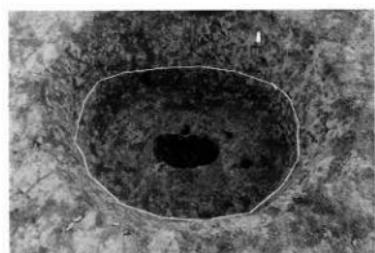
⑧第52号土坑



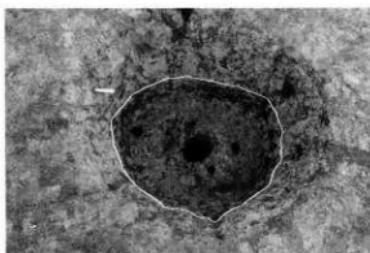
①第53号土坑



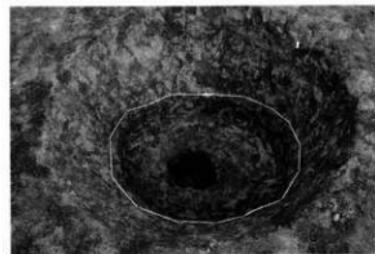
②第54号土坑



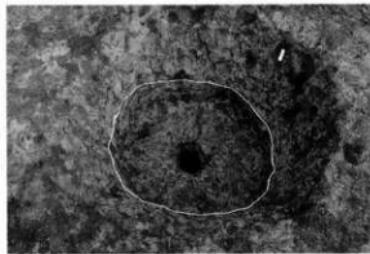
③第55号土坑



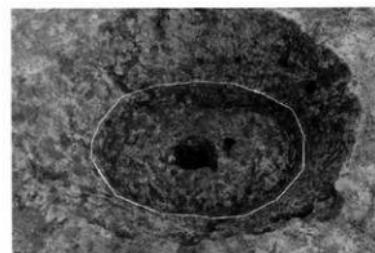
④第56号土坑



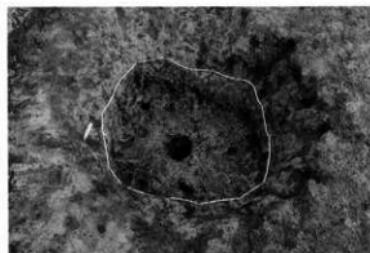
⑤第57号土坑



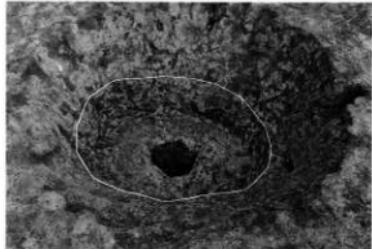
⑥第58号土坑



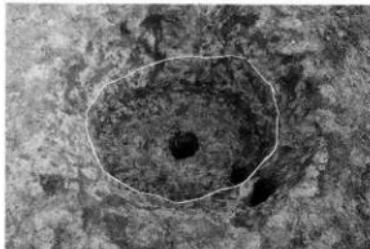
⑦第59号土坑



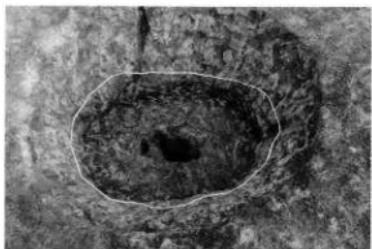
⑧第60号土坑



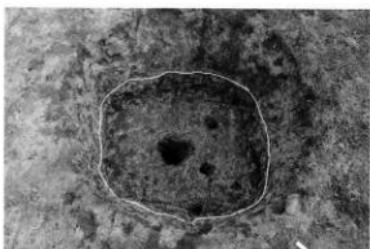
①第62号土坑



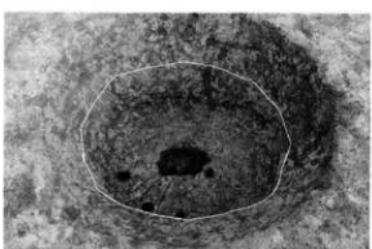
②第63号土坑



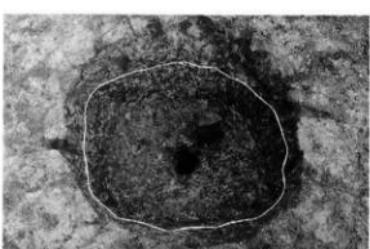
③第64号土坑



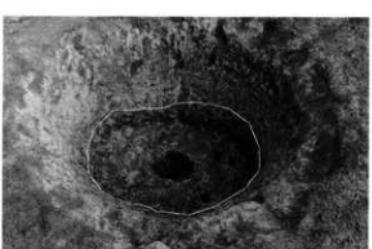
④第65号土坑



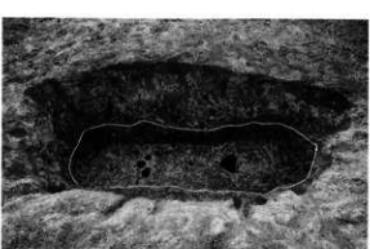
⑤第66号土坑



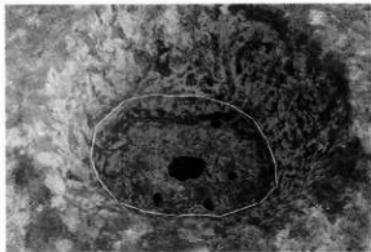
⑥第67号土坑



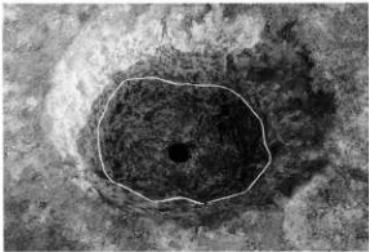
⑦第68号土坑



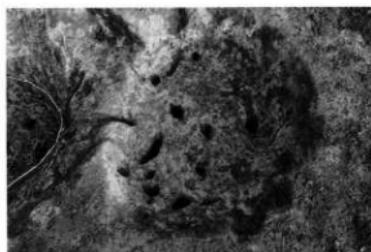
⑧第69号土坑



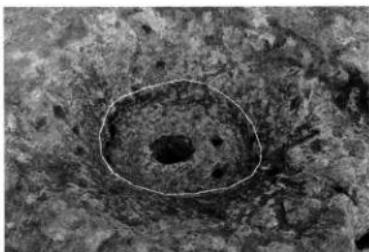
①第70号土坑



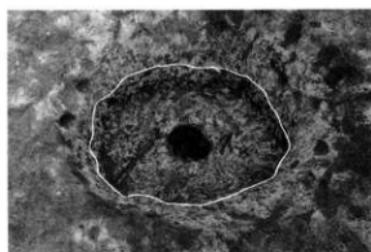
②第71号土坑



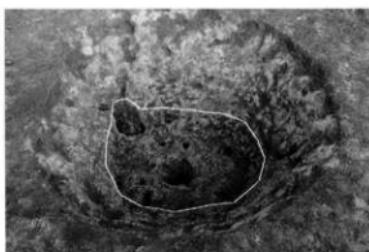
③第72号土坑



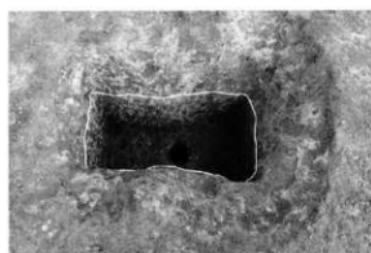
④第73号土坑



⑤第74号土坑



⑥第75号土坑



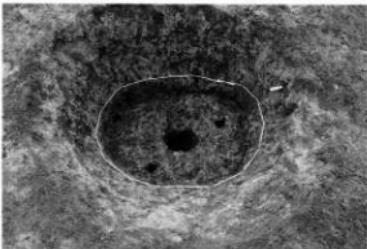
⑦第76号土坑



⑧第77号土坑



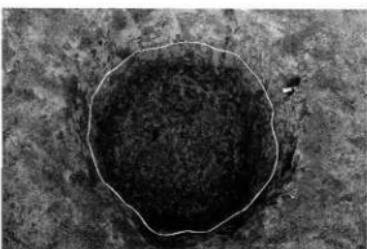
①第78号土坑断面



②第78号土坑



③第79号土坑断面



④第79号土坑



⑤発掘調査に参加された方々

報告書抄録

ふりがな	しもおねいせき							
書名	下尾根遺跡							
副書名	県営ほ場整備事業笠原地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	小林深志 百瀬一郎							
編集機関	茅野市教育委員会							
所在地	〒391-8501 長野県茅野市坂原2丁目6番地1号 Tel 0266-72-2101							
発行年月日	西暦2001年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 〃	調査期間	調査面積	調査原因	
下尾根	茅野市 湖東	20214	47 01分 25秒	36度 15分 25秒	138度 15分 20000214	19991013 1 20000214	7,350m ²	県営ほ場整備事業笠原地区に伴う発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
下尾根	生産跡	縄文	土坑60基		縄文時代中期・後期土器、黒曜石		縄文時代の生産域である落し穴遺構列	

下尾根遺跡

—県営は場整備事業笠原地区に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成13年3月16日 印刷

平成13年3月19日 発行

編集 長野県茅野市塚原2丁目6番1号
発行 茅野市教育委員会

印刷 長野県茅野市塚原2丁目12番30号
永明社印刷所
